

都内私立中学高等学校
校 長
国語科教諭殿
関係教職員

一般財団法人東京私立中学高等学校協会

会 長 近 藤 彰 郎
東京私学教育研究所所長 須 藤 勉
文系教科研究会委員長 畑 澤 正 一
(共催：公益財団法人東京私学財団)

文系教科研究会（国語）「講演会」のご案内
— 漢文教育の未来 —
～ 書名から見た比較文学を例にして ～

平成30年度文系教科研究会（国語）第1回「講演会」のご案内をいたします。

今回は、講師に中央大学文学部の小野泰央先生をお迎えし、標記の演題にてご講演いただきます。

小野先生は日本漢文学のご研究を専門とされ、これまでに数多くのご論文やご高著をとおして、日本漢詩文を博く掘り起こし、その表現の生成と影響などについて犀利に解き明かして来られた、こんにちの学会を実質的に牽引しておいでのご研究者の一人です。先生はまた、かつて高校の教壇に立たれた経験をお持ちであり、このたびのご講演でも、私学の国語教育、とりわけ漢文教育について、多くの示唆や刺戟を私たちに与えてくださるものと思います。

以下は、小野先生ご自身から頂戴したメッセージです。

日本古典の淵源は中国古典にあります。が、「漢文」という外国の古典が「国語」科にある意義はあまり強調されていません。「漢文」の教科書には日本漢文作品が少なすぎますし、「古文」の教科書に中国文学の影響を指摘することも希です。

すべての日本の古典は何らかの形で、中国古典の影響を受けています。日本の古典だけではありません、中国古典は朝鮮にも大きな影響を及ぼしました。この三者を比較することによって初めて、日本古典が相対化されるはずで

「国語」学習が「社会生活の充実に資する」ものであるとするならば、中国朝鮮文学語学を視野に入れること、ひいては「英語」をはじめとした外国語教育とも関連させること、ここに「漢文」教育の未来があると考

待望の漢文教育に係る講演会であり、高・大の教育を架橋する視座をもお持ちの小野先生のお話を聴くことができる貴重な機会です。校務多忙とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成30年6月20日（水）18:00～20:00 ※受付開始17:30より
2. 会 場 アルカディア市ヶ谷（私学会館） 会議室
千代田区九段北 4-2-25 ※裏面案内図参照

3. 講師 中央大学文学部 教員 ^{おの やすお} 小野 泰央 先生

【プロフィール】

1965 年山梨県生まれ。中央大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。博士（文学）。群馬工業高等専門学校、ノートルダム清心女子大学を経て、現在、中央大学文学部教員。日本漢文学を研究し、著書に『平安期天暦期の文壇』（風間書房）、『中世漢文学の形象』（勉誠出版）、『創造するための文章』（真珠書院）がある。現在は、近世における漢詩文注釈の研究を行っている。

4. 参加費 無 料（会員各校の拠出金と（公財）東京都私学財団からの補助金で運営しております）

5. 定 員 80名（申し込み順 ⇒ 定員になり次第締め切ります）

6. 運営委員 金井 利浩（中央大学附属中学校・高等学校）

7. 申込方法 6月14日（木）までに下記宛 Web もしくは FAX にてお申し込みください。

URL : <http://k.tokyoshigaku.com>

東京私学教育研究所

検 索




東京私学教育研究所 文系教科研究会（国語） 担当：岡沢・溝口

TEL 03-3263-0544 FAX 03-3263-0560

【案内図】



■交通のご案内

-  地下鉄 有楽町線・南北線
市ヶ谷駅（1またはA1）出口
-  地下鉄 新宿線
市ヶ谷駅（A4またはA1）出口
-  JR中央線（各駅停車） 市ヶ谷駅
上記改札・出口から徒歩約2分

切り取らずにそのままFAXしてください。送り状は不要です。

文系教科研究会（国語）「講演会」参加申込書 [6月20日（水）実施]

学 校 名	氏 名（ふりがな）

上記の通り参加申し込みいたします。

平成30年 月 日

東京私学教育研究所 御中

校 長



※FAX受理、受付完了等の連絡は省略いたします。（本申込書をお送りいただいた時点で受付完了です）
申込確認が必要な方は、下記にご記入ください。後日、申込書受理書をFAXでお送りします。

・希望する

理由等	FAX番号:
-----	--------